

第 162 号

発行日
2025. 3. 9

Super Highway 春闘速報 13

J R 東労組バス関東本部

従業員「退職」で倒産、過去最多

従業員を自社に繋ぎとめることができず経営破たんするケースが急増。2024年に判明した人手不足倒産 342 件のうち、従業員や経営幹部などの退職が直接・間接的に起因した「従業員退職型」の人手不足倒産は 87 件判明した。

業種別にみると、最も多いのが「サービス業」（31 件）、次いで多いのが「建設業」（18 件）。「運輸・通信業」では初めて年間 10 件を超え、工場作業員やドライバーの退職で事業がままならなくなったケースが相次いだ。

物価上昇に苦慮する従業員から賃上げを求める声が強まっているが、賃上げに対する二極化が進んでいる。満足に賃上げされないことや、待遇改善に消極的な経営に嫌気がさした従業員が退職するなど、「待遇改善をしないことへのリスク」が高まっている。賃上げによって良い人材を高給で困う動きが広がるなか、満足に賃上げされないことを理由に従業員が辞めることで経営が行き詰まる「賃上げ難倒産」が、2025 年に増加する可能性が高まっている。

なかまの声

現状に合った労働条件と賃金体系を早急に確立して貰いたい!このままではますます社員が減ってしまう。

コロナ以前と比較しての利益が未だに比べる対象となっているのはどこも一緒なのでしょう。コロナ以前では無くコロナ以降から今日に至るまでにどの程度利益が増したのかを考える時ではないでしょうか。また、コロナ以降では従業員数も減っているはず。だとしたら少ない人数でより効果的に運営出来ているのなら賃金の上昇は必要であり必然ではないでしょうか。従業員が減り買い上げ日数が増えるばかりで激務と化して行くのは予想に難しくありません。

バス業界の魅力がなくなっている現在、物価上昇に合わせた賃金上昇も出来ないのでは益々、魅力がなくなります。

J R バス関東で働く仲間を一つに!